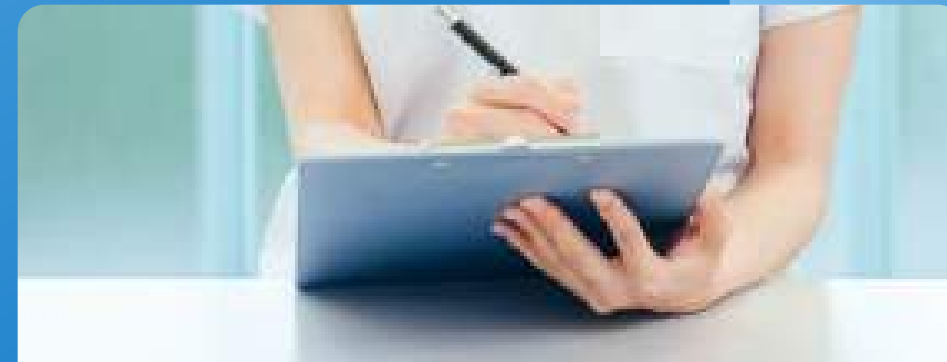


レセプト業務の効率化から

始める医療DX

スマートホスピタル導入の第一歩



CONTENS

レセプト業務の効率化から始める医療DX

1 スマートホスピタル導入が求められる 医療機関の3つの経営課題 P.03

課題1 人手不足と業務負担の増加 P.04

課題2 収益構造の変化と診療報酬制度への対応 P.05

課題3 多様化する医療ニーズ P.06・7

2 医療業界の普遍的な3つの課題解決には、 DX化が効果的 P.08

3 本格的にDX化を進める前に、 小規模導入で効果を測るのが有効 P.09

4 スマートホスピタルとは？ 3つの視点で見る医療DXの全体像 P.10

視点1 スマートホスピタルの仕組みと
医療DXの役割 P.11

視点2 厚生労働省が掲げる
スマートホスピタル構想の全体像 P.12

視点3 スマートホスピタルが
医療現場にもたらす支援と変化 P.13

5 スマートホスピタル導入の 第一歩に最適な3つの業務 P.14

業務1 煩雑なレセプト・医事業務の効率化と収益確保 ... P.15

業務2 患者体験を向上させる受付・会計のスマート化 ... P.16

業務3 医療従事者の負担を軽減する P.17
情報連携・記録のデジタル化

6 医療事務の負担を軽減するなら、 リモート医事サービス「iisy」がおすすめ P.18

01.

スマートホスピタル導入が
求められる医療機関の

3つの経営課題

スマートホスピタルとは...

医療現場の**人手不足**や**業務効率の課題を解決**し、
患者の満足度を向上させるための大切な取り組みです。

スマートホスピタルの導入が求められる背景にある、
医療機関が直面する3つの主要課題について解説します。

課題1

人手不足と
業務負担の増加



課題2

収益構造の変化と
診療報酬制度への対応



課題3

多様化する
医療ニーズ



課題 1

人手不足と 業務負担の増加

医療従事者の業務過多と人手不足は、医療機関の深刻な課題です。

令和4年版厚生労働白書でも、少子高齢化による医療ニーズの増加や医師の長時間労働が、人手不足を深刻化させる原因と指摘されています。

【医療・福祉分野の就業者数の見通し】

	2018年	2025年	2040年	2040年
	実績	実績・人口構造を踏まえた必要人員	実績・人口構造を踏まえた必要人員	経済成長と労働参加が進むケース
医療福祉分野の 就業者数 (かつこ内は総就業者数に占める割合)	826万人 (12%)	940万人 (14～15%)	1,070万人 (18～20%)	974万人 (16%)

資料：「2040年を見据えた
社会保障の将来見通し（議論
素材）」に基づくマンパワー
シミュレーション（2019年5
月厚生労働省）を基に作成。

引用：厚生労働省「令和4年版 厚生労働白書」より

\ 加えて /

高スキル者や経験者の採用が年々難しくなっています

未経験者育成が進まない現場の
負担が悪循環を生む

人手不足が加速

課題 2

収益構造の 変化と 診療報酬制度 への対応

診療報酬制度の改定や医療費抑制の流れにより収益構造が変化しています。

診療報酬制度は原則2年に1回見直され、点数や加算条件の把握が必須です。

下記の診療スタイルの多様化によって、
点数や加算方法が複雑化



厚生労働省
「医科診療報酬点数表」



予防医療
27 糖尿病透析
予防指導管理料 350点など



在宅医療
第2部 在宅医療

正確な請求のために
専門知識・人的リソースが
求められる



事務負担の増加や
請求ミスの
リスクが高まる



診療報酬請求事務を
適切に進められないと
正確な診療報酬が算定できず...

カルテ（診療録）と
診療報酬請求の不一致が発生

返戻が増加

課題 3

多様化する 医療ニーズ

高齢化や多様なライフスタイルにより、柔軟な診療体制が求められています。



医療



介護の連携



夜間・休日の
診療対応



オンライン診療
の導入

など



地域全体での医療連携を支援するため、
2017年から**地域医療連携推進法人が設立**されました。

地域の診療所と中核病院の連携ができれば...



慢性疾患患者の経過観察は診療所で、
急変時は病院でといった
適切な振り分けが可能に



診療情報の共有が進めば、
どの医療機関でも治療履歴を把握でき、
検査や投薬の重複を防ぐ

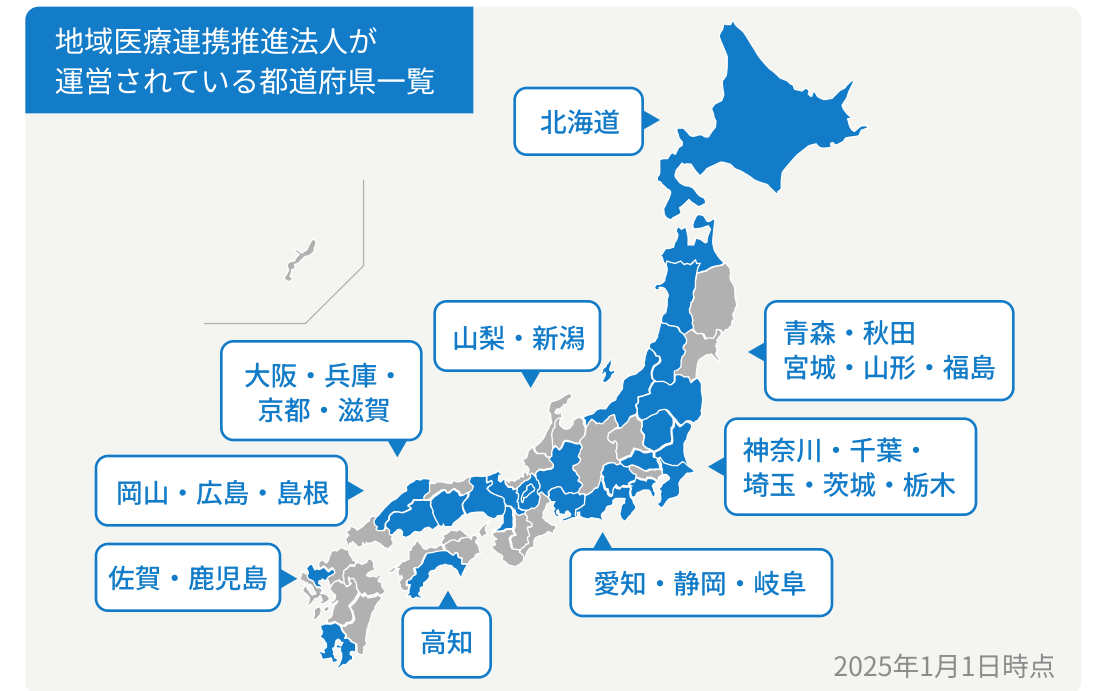
課題 3

多様化する 医療ニーズ

＼ しかし /

令和6年医療施設経営安定化推進事業の調査では、
地域医療連携推進法人の設立数は2025年1月1日時点で、
25道府県・45法人しか運営されておらず、
全国的に普及していません。

引用：厚生労働省「令和6年度 医療施設経営安定化推進事業
地域医療連携推進法人が行う取組に関する調査研究報告書」より



地域医療の役割分担や情報連携が進まず、課題が残されたまま...

診療機能の重複や業務負担の偏り

患者受け入れのひっ迫

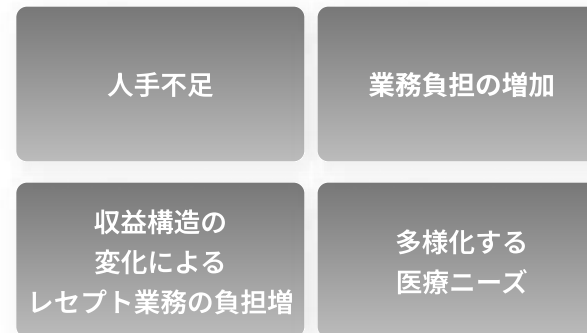
地域医療の持続可能性が危ぶまれます。

02.

医療業界の普遍的な
3つの課題解決には、
DX化が効果的

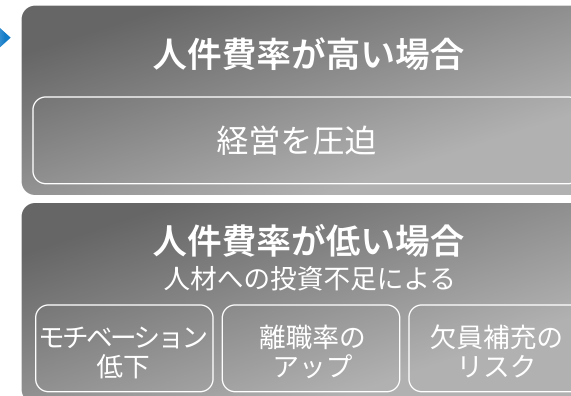
DXにより
ノンコア業務を効率化すれば....

医療従事者は
本来の医療に専念でき、
下記の課題の解決につながります。



DX化によって業務全体の
効率が増えれば...

人員を増やさず現状の課題に
対応しやすくなります。



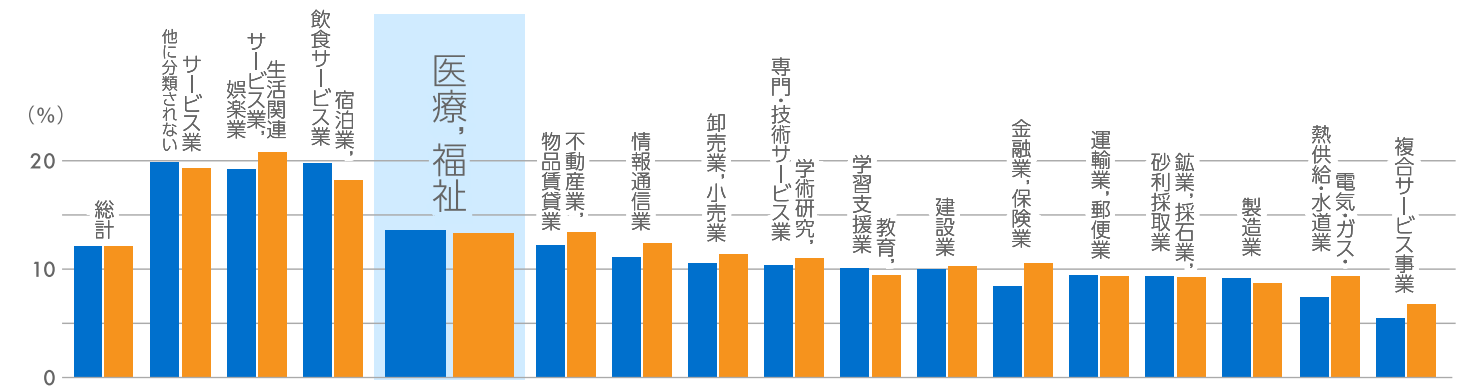
DXによって省力化した分は...

人件費や設備投資に
振り分けることで
医療サービスの質の向上にも
つながります。

産業別入職率・離職率（一般労働者）

■ 入職率 ■ 離職率

引用：厚生労働省「令和5年 雇用動向調査結果の概況」（2024年）より作成



03.

本格的にDX化を進める前に、

小規模導入で効果を測るのが有効

大規模なシステム投資は
コストや**導入**の手間が大きく、
慎重な判断が必要です。



\ まずは /

レセプト点検などの
省力化ツールから導入
現場に過度な負担をかけずに
DXの効果を段階的に確認。



\ 業務の一部でも /

**効率化が
実感**できると...

職員の意識も前向きになり、
次のステップとして本格的な
投資への判断もしやすくなります。



金額や運用面でのハードルが低い「iisy」のように、
既存業務に組み込みやすいサービスを活用すると、気軽に**DXを始められる**でしょう。

ソラストのリモート医事サービス「iisy」



04.

スマートホスピタルとは？ 3つの視点で見る 医療DXの全体像

スマートホスピタルは...

医療現場の課題解決に向けた医療DXの重要な取り組みです。

スマートホスピタルを3つの視点から、
医療DXがどのように現場に変化をもたらすのかを解説します。

視点1



スマートホスピタルの仕組みと
医療DXの役割

視点2



厚生労働省が掲げる
スマートホスピタル構想の全体像

視点3



スマートホスピタルが
医療現場にもたらす支援と変化

視点1

スマート ホスピタルの 仕組みと 医療DXの役割

スマートホスピタルは、**医療DXを実現させるための基盤**となる仕組みです。



情報が一元化されると

患者の診療履歴や検査結果などを
適切かつ迅速に把握

診療の精度向上や
医療安全の確保にもつながる

実は **一般診療所の場合** 約半数しか、電子カルテに移行していません。

電子カルテシステム	一般病院	病床規模別			一般診療所
		400床以上	200～399床	200床未満	
平成23年 (※3)	21.9% (1,620/7,410)	57.3% (401/700)	33.4% (440/1,317)	14.4% (779/5,393)	21.2% (20,797/98,004)
平成26年	34.2% (2,542/7,426)	77.5% (550/710)	50.9% (682/1,340)	24.4% (1,310/5,376)	35.0% (35,178/100,461)
平成29年	46.7% (3,432/7,353)	85.4% (603/706)	64.9% (864/1,332)	37.0% (1,965/5,315)	41.6% (42,167/101,471)
令和2年	57.2% (4,109/7,179)	91.2% (609/668)	74.8% (928/1,241)	48.8% (2,572/5,270)	49.9% (51,199/102,612)
令和5年	65.6% (4,638/7,065)	93.7% (609/650)	79.2% (956/1,207)	59.0% (3,073/5,208)	55.0% (57,662/104,894)

引用：厚生労働省（2023）『医療施設調査』より作成

視点 2

厚生労働省が掲げる

スマート ホスピタル構想の 全体像

厚生労働省は「医療DXの推進に関する工程表」に基づき、
スマートホスピタル実現に向けた以下**3つの重点施策**を掲げています。



全国医療情報 プラットフォームの創設

医療機関間で診療情報を共有し、
全国で活用できる仕組みを
構築する



電子カルテ情報の 標準化

異なる医療機関やシステム間での
スムーズなデータ連携を可能にし、
診療の継続性を高める



診療 報酬改定DX

診療報酬制度をデジタル化し、
効率的かつ透明性の高い
運用を実現する

以下の実現を目指す



国民の更なる
健康増進



切れ目なくより
質の高い医療等の
効率的な提供



医療機関等の
業務効率化



システム人材等の
有効活用



医療情報の
二次利用の環境整備

視点 3

スマートホスピタルが
医療現場に
もたらす支援と
変化

スマートホスピタルの導入

医療現場には主に**3つの変化**が期待されます。



業務効率化

医療機関間で診療情報を共有し、
全国で活用できる**仕組みを構築**



人材不足の補完

リモート医事や業務の外部委託を
活用し、**限られた人員でも
効率的な運営**を可能に



患者対応の質向上

受付・会計・情報提供などを
効率化し、**待ち時間の短縮と
患者満足度の向上**を図る

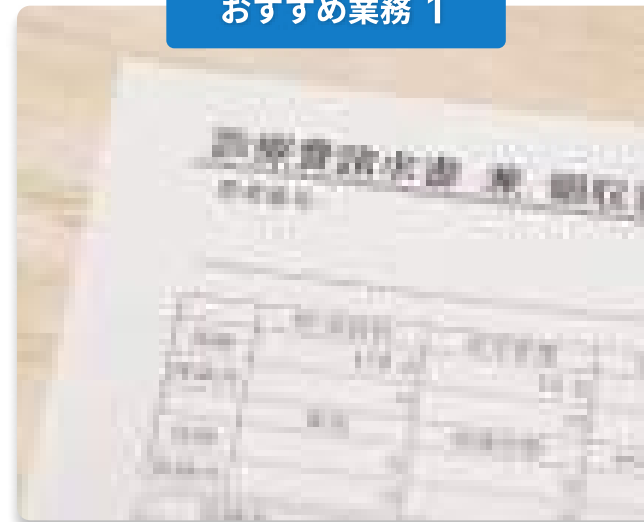
05.

スマートホスピタル導入の 第一歩に 最適な3つの業務

スマートホスピタルの導入を検討する

医療機関が、
初期段階で取り入れやすい**3つの業務**について解説します。

おすすめ業務 1



煩雑なレセプト・
医事業務の効率化と収益確保

おすすめ業務 2



患者体験を向上させる受付・
会計のスマート化

おすすめ業務 3



医療従事者の負担を軽減する
情報連携・記録のデジタル化

おすすめ業務 1

煩雑なレセプト・
医事業務の
効率化と収益確保

レセプト業務に**スマートホスピタル**を導入すると...



人的負担を軽減



収益の安定化

リモート医事サービス「iisy」の活用がおすすめ



レセプト業務

専門知識が求められ、処理件数も多いので、限られた人員で対応するには負担となりがち

＼ 外部の医事専門スタッフに委託するメリット /

MERIT 1

請求不備の抑制

MERIT 2

請求方法/
解釈の同期

MERIT 3

人件費の削減

おすすめ業務 2

患者体験を向上させる

受付・会計の スマート化

＼ 満足度の向上が期待 /



事前Web受付や
自動精算機の導入により、
患者の待ち時間を短縮

＼ 来院時のストレスが軽減 /



受付や会計での
滞留が減ることで、
待合室の混雑も緩和

＼ 業務負荷が増えにくい /



来院が集中する日でも、
スタッフの業務負荷が
増えにくくなる

おすすめ業務 3

医療従事者の負担を
軽減する

情報連携・ 記録のデジタル化

電子カルテや情報共有ツールの活用

診療やケアに集中できる環境を実現できます。

記録作業や情報共有などの間接業務を効率化し、入力・確認作業の簡略化や記録の一元管理が可能です。



業務の抜け漏れが減る



診療チーム内の
情報連携がスムーズに



時間外業務の削減

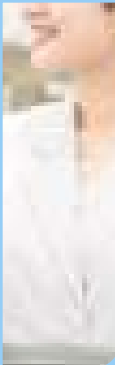


医療安全の向上

医療従事者の

働き方改革を後押し

する効果も期待

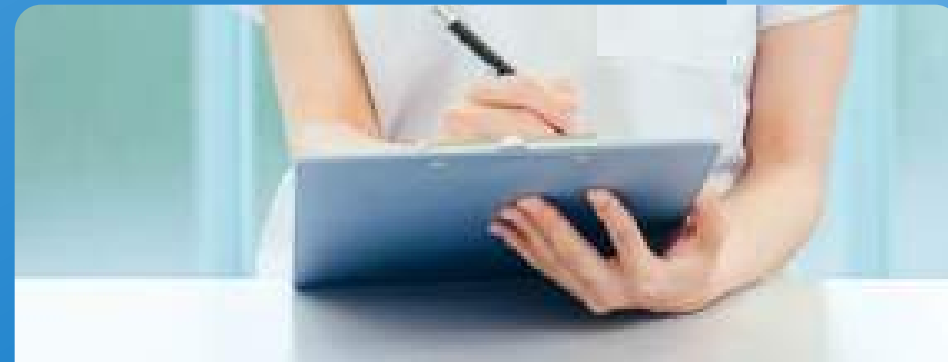


スマートホスピタルの第一歩！

煩雑なレセプト・

医療事務の負担を軽減するなら、

リモート医事サービス「iisy」がおすすめ



06.

医療事務の負担を
軽減するなら、

リモート医事
サービス「iisy」が
おすすめ

診療報酬請求やレセプト業務の負担が医療現場の課題となる中、
DX推進の一環として**リモート医事サービス「iisy」**[※]の活用がおすすめです。

※リモート医事サービスとは...医療機関のレセプト業務や医事会計業務などを、外部の専門スタッフが遠隔で支援するサービス

merit 01 専門スタッフによる
業務代行

レセプト点検やオンライン請求など、
医療従事者の**負担が大きい業務**をソラストの**専門スタッフが代行**する

merit 01 継続的な質の
サポート

- 点検結果に関する**不明点を専門家に質問**できる **回数制限なし**
- DX推進における現場との密な**連携を支援**できる

merit 01 選べる3つの
プラン

医療機関のニーズに応じて段階的な導入が可能

- レセプトチェックのみ代行して費用を抑えたい方には「**レセプト点検プラン**」
- 人手の確保が難しく請求業務を一括で任せたい方には「**診療報酬請求まるっとプラン**」
- 訪問診療の負担を軽減しリソースも確保したい方には「**訪問まるっとプラン**」

iisyとは... 医療機関のDX推進を安定的かつ継続的に支えるシステム（仕組み）

請求業務の負担軽減

診療報酬請求に必要な
記載事項や加算要件の正確性

ノウハウの蓄積

ソラスト 医療DX・iisy
について

[お問い合わせはこちら](#)

